

# アラジン通信



第34号

2015. 8. 5

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン

## CONTENTS

- ・第12回通常総会報告 P1
- ・介護者フォーラム2015報告 P2
- ・全国介護者支援団体連合会総会 P3
- ・インフォメーション P4

## 第12回アラジン通常総会を開催しました

5月30日(土)午後、新宿御苑前の東京在宅サービスにて、アラジン第12回通常総会を開催しました。正会員数115名のうち22名が出席、委任状64名のもと、アラジンの活動を共有する機会となりました。

この日は、牧野理事長の挨拶に始まり、議長に会員の柳澤健一さんが選出され、議案が審議されました。まず第1号及び第2号議案の2014年度事業報告・決算報告・監査報告があり、それぞれが承認されました。続いて第3号及び第4号議案の2015年度事業計画・予算案、第5号議案の役員の変更が審議され、原案通り承認されました。

アラジンを立ち上げた当初に比べ、社会現象と相まって介護者像が多様になり、シングル層、男性介護者、30代・40代や若年の介護者、働く介護者などの増加により、介護者の抱える問題も多様かつ複雑になってきました。昨年度も「高齢者や介護者が孤立しないための地域社会づくり」をミッションに様々な事業を、行政と協働、あるいは受託で、また自主事業で実践してきました。その中で、特筆すべきは ①全国で介護者支援活動をしている団体の連合会を立ち上げたこと ②今まで社会問題として手が付けられていなかった30代～40代のケアラーを対象に、補助金を得て、仲間づくり、場づくり、ヒアリング調査を行ったことです。

これまでアラジンが取り組んできた介護者支援が、国の新オレンジプランの認知症施策の中でやっと明文化されました。今年度は、これまで10数年にわたり実施してきた様々な地域試行事業をさらに深化させ、介護者のための「ケアラー総合支援センター」の実践を目標に掲げて活動を拡げていくことを確認しました。

総会に引き続き、2014年度に取り組んだ事業の中から「30代、40代のケアラー実態調査報告会&ワークショップ」が開催されました。はじめに実態調査のまとめを行った三具理事から報告があり、その後当事者である男女お二人から介護をしている実態の報告がありました。これを受けて、参加者が4つのグループに分かれ、会員・理事・事務局スタッフが合同で「30代、40代のケアラーを支えるために地域で何が必要で、何ができるか」というワークショップを行いました。どのグループも初顔合わせとは思えない和気藹々な雰囲気が進められ、終了後は各グループから発表がありました。



地域の中にある地域資源や情報がどう繋がるか、当事者を支えるチームとして専門職、市民が繋がっていくことが必要など様々な意見交換があり、顔の見える関係をつくるために場や人材が必要という課題も見えて、次のステップに一步踏み出す道筋が考えられました。

今年度も理事・スタッフとともに、アラジンの事業計画を実践すべく、日々活動を続けてまいります。会員や関係者の皆様のご理解、ご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。またアラジンへの忌憚のないご意見も頂戴できたら有難く思います。社会問題となっている「介護者支援」のうねりを皆様とともに起こしていきたいと思っております。(事務局長 中島由利子)

# アラジン 介護者フォーラム 2015

## 地域包括ケアにおける介護者支援とカフェの役割

6月27日、アラジンの「介護者フォーラム2015」を東京ウィメンズプラザホールで開催しました。今年のテーマは「地域包括ケアにおける介護者支援とカフェの役割」。先駆的に地域実践をしている事例から、地域に求められていることや介護者を効果的に支援するための活動のヒントを得るとともに、介護者支援の場を全国に波及するための方策を探りました。

当日は、150名の方に参加をいただき、田宮菜奈子先生の基調報告の後、7名の方に登壇いただき、4名の方からの事例発表をもとに熱心な議論がありました。

2015年度の介護保険改正により、自治体の政策として地域のインフォーマル資源や市民の力を活用する方向性が打ち出されている中、どのように市民活動が位置づけられていくのか介護者を効果的に支援する活動とは...

フォーラムの第1部では、筑波大学の田宮菜奈子先生から、「世界の介護者支援から考える日本のあるべき姿」というテーマでの基調講演、その後、第2部としてパネルディスカッションが行われました。



### 第1部 基調講演

ご自身が臨床医から研究者に代わられた経緯から話が始まり、海外の状況について例をあげての話が続きました。そのポイントは、

- ケアをする家族は社会の偉大な資産であるという考え方もある。
- イギリスとドイツでは制度設計はかなり違うが、介護者支援はかなり進んでいる。ドイツは介護という枠の中で介護をよくするために介護者を支援する、イギリスは介護者を個人として社会的役割を認めている、というのが大きな特徴である。
- アメリカ、途上国などそれぞれ取り組んでいるが、日本は介護者支援の法律はまだない。出来る事から進めて行けば介護がいかに重要なことを担っているのが見えるようになり、動いていくのではないかと、示唆に富むお話でした。

### 第2部 パネルディスカッション

東洋大学の渡辺道代さんをコーディネーターとして、西宮市の「つどい場さくらちゃん」丸尾多重子さん、春日井市「てとりんハウス」岩月万季代さん、八王子市「ケアラズカフェわたぼうし」新井尚子さん、国立市地域ケア推進担当課長大川潤一さんの4名の方からそれぞれの活動について紹介をいただきました。

○丸尾さん：「介護保険導入後、人と人とのかわりが薄くなっているようにも感じる。つどい場と一緒にご飯を食べ、話を聴くことが大事」。

○岩月さん：「飲食が大事、カフェは人が寄ってくるところ、自分はママと呼ばれている。私たちが関わることで、ここだから自分の困っていることや弱みを話せる、それを大事にしていきたい。」

○新井さん：「介護者と同じに本人も大事、本人が揺れば介護者も揺れる、介護者が揺れば本人も揺れることを考えつつカフェで家族支援をしていきたい。」

○大川さんには、行政の立場から国立市の現状報告をいただきました。



「市民のアクションミーティングからの提案などもあり、家族支援の視点を入れて行政も考えながら取り組んでいくことが必要だ」とのご意見でした。

全体としては資金不足、人員不足に悩むところもありながら、このようなカフェが増えていけばいいのではないかと、という話でした。

会場からは、コミュニケーションツールや若年性認知症の方の活動など5件の質問もあがり、それ

それについてパネリストから回答がありました。

最後にコメンテーターの北海道栗山町社会福祉協議会事務局長の吉田義人さんより、「平成22年からケアラー支援を切り口にいろんな取り組みをしてきたが、自分達の思いだけでケアラー支援は難しい。制度化することによって一般に普及する。制度化し、将来的な保障を得るためには議会議員を仲間に入れる。家族、コミュニティという形で様々な活動をしていくことは住民自治として重要である。どうしてもできないものこそ自治体にやってもらう。長寿社会になり高齢者や障がいを持った人達が地域で暮らすのはあたりまえになっている。そういう中で社会構造をどうするか考える事が必要である。」とのコメントがありました。

また、基調講演をされた田宮さんからは、「地域包括ケアについての実態調査を始める」との発言がありました。

各地で様々なケアラズカフェが動き出しています。それぞれに問題を抱えてはいますが、いずれもそこに集う人達へ温かいメッセージがあふれているように感じました。小さな笑顔が各地で見られるようになると思います。 (事務局 奥 美津子)



\*このフォーラムの発言内容を含む資料を秋には販売する予定です。

## 「全国介護者支援団体連合会」第2回総会を開催

6月28日(日)、昨年発足した「全国介護者支援団体連合会」の第2回総会を、正会員17団体のうち15団体の出席を得て、東京在宅サービス会議室で開催しました。

当日は、2014年度の活動報告(セミナー開催、3回の運営委員会開催、リーフレットの作成など)・決算報告に続いて、2015年度の活動計画と収支予算が決定されました。本年度も、キリン福祉財団からの助成金を頂いて運営していきます。

2015年度は、次の5つの柱を活動の基本にしていくことが提案され、その計画に基づいて話し合いがされ、全国キャラバンや介護者フォーラムの開催なども具体的に進めていくことになりました。

### ①介護者にかかわる支援やサービスモデル事業の研究

- ・ケアラーアセスメントの実践研究:「ケアラーアセスメント」導入のために必要な支援のしくみについての研究
- ・サポート人材の養成:「傾聴」の知識を持ったサポートターを養成する。有資格者ではなく地域の市民に活動してもらう、行政にも働きかける。
- ・介護者支援システムの構築:地域の拠点となる「ケアラズカフェ」とカフェボランティアの役割を明確にし、各自治体の介護者支援システムを作るための提言を行う

### ②介護者支援にかかわる会員団体の情報交換や交流、ネットワーク事業

### ③介護者支援にかかわる政策の実現にむけての提言と発信

### ④介護者支援にかかわる団体の基盤整備に向けての提言と支援

### ⑤その他、本会の目的達成のために必要な事業

まだまだ、課題は多々ありますが、まずは全国の介護者支援団体が1つになり一丸となって、介護をする環境を整え、介護者支援政策の実現に向けて、ゆるやかにともに歩んでいきたいと、つながりを作り、介護者支援を全国に波及していきたいと思います。 (事務局 阿久津美栄子)







## ケアフェス2015

2015年9月27日(日) 10:00~16:00

於：上智大学四谷キャンパス(12号館) 参加費：500円(学生無料)  
JR中央線・総武線、東京メトロ丸の内線・南北線/四谷駅 徒歩5分

主催：ケアフェス2015実行委員会 後援：千代田区役所

共催：上智レンコンプロジェクト

(上智大学教職協働・職員協働イノベーション研究申請グループ)

テーマ

多様化する家族のかたち、ケアのかたち  
～あなたも、わたしもケアラー～

\*ケアフェスのお手伝いをいただける方、実行委員会事務局までご連絡ください。

Email: carefes2015@gmail.com

WEBサイト: http://carefes.jimdo.com/

### ☆ケアラースカフェ～地域の支え合い拠点～

今月でオープンから4ヶ月目を迎えたケアラースカフェ in まちのたすけあいセンター。

月・水・木のケアラースカフェには、他県他区より足を運んでくださるケアラーの方、自身の地域でつどい場を立ち上げたいという



方などの来訪があります。5月には、地域の町会、民生委員、地域包括支援センターにお集まりいただきました。そこで町会の方がちらしを回覧板で回してくださることになり、それにより地域の方がいらしてくださるようになりました。オープン当初より外から眺める方々がいらっしやいましたが、ドアを開けるきっかけとなったのは、「町会の回覧板」による安心感でした。「2,3日誰とも口をきいていなかった」という一人暮らしの70代の女性、「目が不自由で息子さんの付き添いがなければ外出できなかったけれど、ここなら大丈夫と思いきって来た」という80代の女性、「孤独だから車椅子を押して一緒に散歩に行ってくれる人が欲しい」という車椅子の50代の男性等、日頃の思いや困り事をお聴きする度に地域での支え合いの必要を強く感じます。「まちのたすけあいセンター」の今後を応援してください。(事務局 森川恵子)

### 事務局リレー便り

梅雨明けとともに厳しい暑さになりましたが、熱中症にはくれぐれもご注意ください。

私は、昨年6月から、アラジンの経理の仕事を手伝っています。NPO法人としてのアラジンの活動内容もまだ十分理解していないためいろいろな驚きと発見がありました。介護者の方の大変さも改めて感じさせられました。

スタッフの方は、介護者の方をサポートしようという気持ちが強くあり、そのために日々努力している姿に驚かされました。

私も1年がたち、少しずつ内容も分かってきましたが、これからも日々勉強をしながら、経理業務をしていきたいと思っています。

どうぞ皆さまも体調など崩されませぬようお気を付け下さい。(事務局 小林和子)

編集後記：アラジンが今の事務所に移ってそろそろ5年になります。この夏はマンションの外壁工事が始まります。足場を組んでの工事が3カ月ほど続きます。事務所ではこれを機に大掃除・・・をしたいなと思っています。事務所の中も外もリフレッシュが必要です。みなさんも心と体のリフレッシュをいかがですか？

(M. O)

☆今年も会費をお納めいただいた方に「会費お振込ありがとうカード」を同封させていただきました。まだ、お振込いただいてない方にはお振り込みいただきますようお願い申し上げます。

発行：NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン 発行者：牧野史子

事務所：〒160-0022 新宿区新宿 1-25 -3 エクセルコート新宿 302号

TEL 03-5368-1955 FAX 03-5368-1956

E-mail arajin2001@arajin-care.net URL http://arajin-care.net/